

## 昆虫食に関する大切なご案内

いつも米とサーカスをご愛顧いただき、ありがとうございます。

わたしたちは2011年に高田馬場にて米とサーカスを開店、2016年より昆虫食をはじめてご提供しました。以降、現在も様々な希少食材を世界各国、日本全国より仕入れ調理、ご提供しております。当店は皆様と、たくさんの"初めての食体験"を共有したいと考えています。

当店にお越しいただく、商品をご購入いただく全ての方へ、お召し上がりの前に知っていただきたい大切なご案内がございます。

### 【食用昆虫はアレルギー症状を起こす可能性があります】

昆虫はエビやカニと似た成分を持っています。

そのため、昆虫食は甲殻類アレルギーの可能性を含んでいます。

甲殻類アレルギーを起こすと、肌の痒み、鼻や喉の違和感、腹痛、意識を失うなどのアナフィラキシーを起こす可能性もあります。

### 【エビやカニにアレルギーがなくても、症状が起こる可能性があります】

甲殻類アレルギーの既往があるかは目安にはなりますが、甲殻類アレルギーを持っていない方でも昆虫による食物アレルギーを発症した事例が存在します。

召し上がるタイミングで睡眠不足であること、肉体疲労状態であることもアレルギー症状を誘発しやすくなることがあります。

また、昆虫はまるごと食べられる食材です。そのため、昆虫の消化管に残存する飼料由来のアレルゲンを摂取してしまうリスクがあります。

### 交差反応（※）について

昆虫食に含まれるアレルゲンはトロポミオシンという筋肉に含まれるタンパク質と考えられています。

例えば、コオロギのトロポミオシンとエビのトロポミオシンは良く似た構造を持つため、エビアレルギーのある人はコオロギアレルギーを起こしやすくなるといえます。

さらに、研究の結果エビとダニは一部の人で交差反応することもわかっており、コオロギアレルギーとダニアレルギーも関係することがあるようです。

### ※交差反応とは

アレルギーを起こすタンパク質が同じような性質を持っているため、その性質が重なり症状を起こすこと。

### 例

- ・クラゲの刺し傷でできるポリグルタミン酸(PGA)から、納豆アレルギー
- ・特定のダニにかまれることで、Alpha-gal アレルギー(哺乳類の肉アレルギー)

・スギ花粉に対してアレルギーを持っている場合、スギ花粉とタンパク質の構造が似ているシラカバやハンノキに対してもアレルギーが発症、シラカバ花粉に対してアレルギーを持っている場合、リンゴアレルギー発症 など

### 【当店で事例】

2023年5月

遠方より当店に来店され、カンボジア産タランチュラ(ボイル、フライ)を召し上がったお客様が退店約2時間後にアナフィラキシーと思われる症状を発症、翌日回復  
甲殻類アレルギーの既往歴はないものの、血液検査を実施

当店ではタランチュラを食品アレルギー物質検査を実施する機関へ提出、結果を待ち情報を公開する予定です。

※当店で提供するタランチュラは産地であるカンボジアでは国民的スナックとして市場に並び、日常的に食べられているものです。

### 【食べるのがご心配な方へ】

心配があれば、まずはスタッフへご相談ください。

ただし、私たちは医療機関ではなく、スタッフは医療従事者ではありません。  
そのため、昆虫に対するアレルギーに関する基礎知識をお伝えすることしかできません。

ご不安が拭えない場合は決して無理をせず、昆虫を食べることはどうかご遠慮ください。  
ご自身でご判断し、自己責任でお召し上がりいただきますようお願いいたします。  
お子様におかれましては、保護者の方が判断をお願いいたします。

### 【最後に】

米とサーカスでは、運営する亜細亜TokyoWorld株式会社の「美味しいは楽しい、楽しいは美味しい」という理念のもと、たくさんの初めてをお客様と共有していきたいと考えています。  
ただし、「初めての食材を美味しく、楽しく食べるにはリスクを良く知り、伝え、納得してから」という事が大前提であり、すべてのスタッフへこれを浸透させる義務があると考えます。

社内にて定期開催している食品衛生講習とともに、食品の安全性とリスクに関する勉強会を随時開催し理解を深めてまいります。  
全てのお客様におかれましては、このリスクをご理解いただき、お食事を楽しんでいただけますと幸いです。

重要：本サイトの内容、回答及び推奨事項は、医療機関の受診、診断又は治療に取って代わるものではありません。

参考

NPO法人食用昆虫科学研究会ー昆虫食品の安全性と国内外の動向

一般社団法人日本アレルギー学会ホームページ

交差反応ーその他の特殊な病態【食物アレルギー研究会】

クラゲと納豆アレルギー 猪又直子 横浜市立大学大学院医学研究科環境免疫病態皮膚科学

食物アレルギー診療ガイドライン2021